

理科 授業改善推進プラン

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

- (1) 成果
- 観察や実験に対して意欲的に取り組むことができた。
- (2) 課題
- 観察や実験の結果から問題を見出せるようにしたり、目的意識をもって観察や実験に取り組むことができるようにしたりすること。

2 観点ごとの実態・学習効果測定結果の分析

	3 年	4 年	5 年	6 年
知識・技能	・観察や実験結果から基本的な技能を身に付けることができる。	・目標値とほぼ等しい。 ・植物や生き物（特に昆虫）に関する知識の定着が不十分な児童が多い。	・目標値より大きく下回っている。 ・植物の成長や乾電池のつなぎ方などの基本的な知識が身に付いていない。	・目標値とほぼ等しい。 ・植物や動物の成長といった分野の正答率が高く、知識が身に付いている。
思考・判断・表現	・観察や実験結果から、共通点や差異点を基に問題を見出すことが難しい。	・目標値より 2 ポイント下回っている。 ・経験が乏しい分野については、定着が不十分な児童が多い。	・目標値より 5 ポイント程度下回っている。 ・実験操作の誤りや、実験結果の理由を説明することに課題がある。	・目標値より 5 ポイント程度上回っている。 ・条件制御の考え方が身に付いている。 実験結果を基に考察する力が伸びてきているが、児童による差が大きい。
主体的に学習に取り組む態度	・観察や実験に意欲的に取り組める児童が多い。	・目標値とほぼ等しい。 ・実験への興味関心は比較的高い児童が多い。しかし、観察に対しては低い児童が見られる。	・目標値より大きく下回っている。 ・生物への関心が高い児童は多いが、自然の事物・現象についての問題を解決しようとする意識が弱い。	・目標値より 2 ポイント上回っている。 ・観察や実験に意欲的に取り組むことはできるが、何のために実験・観察を行うのかといった目的意識をもって実験や課題に取り組む力が弱い。

3 課題と授業の改善策

		3 年	4 年	5 年	6 年
課 題	知識・技能	・観察や実験結果から基本的な技能を身に付けること。	・植物、生き物（特に昆虫）に関する知識を身に付けること。	・植物の成長と環境との関わり、電流の働きについての基本的な知識を身に付けること。	・顕微鏡など、実験機器の取り扱い方に関する知識を身に付けること。
	思考・判断・表現	・観察や実験結果から、共通点や差異点を基に、問題を見出すことができるようにすること。	・実験ができていない経験が乏しい内容の定着を図ること。	・予想や実験方法、実験結果の理由を言葉で説明する力を身に付けること。	・結果と考察を分けて考えられるようにすること。
	主体的に学習に取り組む態度	・観察や実験に意欲的に取り組めるようにすること。	・事象の変化が即時で見られない観察などに対する関心を高めること。	・課題を見付け、予想や仮説をたてて実験観察に取り組めるようにすること。	・課題解決に向けて、目的意識をもって実験・観察に取り組めるようにすること。
授 業 の 改 善 策	知識・技能	・実験や観察のまとめをしっかりと行い、学んだことをノートに分かりやすくまとめる習慣を付けるようにする。	・これまでの経験と学びを結び付けるような学習を展開したり、実際に触れる、見るなどの実感を伴った学習をしたりするようにする。	・基本的な実験器具の操作や植物を育てる体験的な活動を繰り返し取り入れる。	・実際に実験機器を操作する機会を多く設定し、体験的に理解できるようにする。
	思考・判断・表現	・解決したい問題についての予想や仮説を発想する際に、自然の事物・事象と既習の内容や生活経験を関係付けしながら、ノートにまとめるようにする。	・自分の手で動かしたり、予想を十分に立てたりして取り組ませることで、体験的活動となるようにする。	・ノート指導において、予想から考察までの型を示し、自分の言葉で書く活動をとるようにする。	・ノート指導において、「結果」「考察」の定義を示したり、書き方の例を示したりすることで、児童が考えを表現しやすくする。
	主体的に学習に取り組む態度	・植物の栽培や昆虫の飼育という体験活動をより増やして、自然を愛する心情や主体的に問題解決しようとする態度を養う	・観察する際は、観察の視点を明確にしたり、前回の観察との相違点を見つけたりしながら観察するようにする。	・自然の事物・現象に対する出合わせ方を工夫し、課題をもてるように導入の工夫をする。	・課題を明確にして、根拠を伴った予想をたてさせることで、主体的に実験や観察に取り組めるようにする。

		ようにする。			
--	--	--------	--	--	--